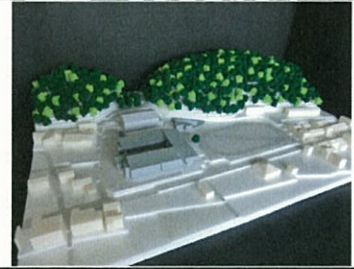


# CASBEE<sup>®</sup> 新築 [簡易版]

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築 (簡易版) 2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.8)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	上林小学校・中学校	階数	地上2F
建設地	京都府綾部市八津合町山17	構造	RC造
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	80人
気候区分		年間使用時間	2,540時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年6月 予定	評価の実施日	2012年7月5日
敷地面積	16,039 m <sup>2</sup>	作成者	共同設計株式会社
建築面積	2,102 m <sup>2</sup>	確認日	2012年7月5日
延床面積	3,390 m <sup>2</sup>	確認者	共同設計株式会社



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%

②建築物の取組み: 81%

③上記+②以外のオンサイト手法: 81%

④上記+オフサイト手法: 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.6

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項	
<b>総合</b> 建物平面計画について、中庭を中心として普通教室は全室南向き配置とすることで、自然採光や自然通風に配慮した計画とする。平面的にも形態的にもシンプルなデザインとすることで、管理がしやすくメンテナンスが容易な施設とする。また、太陽光発電装置を設置し、自然エネルギーを活用することで環境負荷の低減を図り、地球温暖化の防止に配慮する。	<b>その他</b> 0
<b>Q1 室内環境</b> 教室、廊下等ほとんどの室において複層ガラスを使用し、結露防止対策と共に建物の断熱性能を高めている。また南面開口部にバルコニーや庇を設置し、温熱環境や光環境の向上を図っている。	<b>Q2 サービス性能</b> 教育内容の変化や間取りの変更に柔軟に対応するため、柱・梁・外壁は高耐久なフレームとし、内部は変更可能な乾式間仕切壁としている。内装計画として床や腰壁などに木を使用し、子ども達にとって温かみのある快適な
<b>LR1 エネルギー</b> 複層ガラスや断熱材使用による断熱強化や、南面開口部側のバルコニー・庇による日射遮蔽の向上を図っている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 使用材料はF☆☆☆☆または規制対象外の建材とし、有害物質の出さない建材の使用を促進している。
	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 階数を2階とし、片勾配の屋根形状とすることで、周囲の街並みを考慮した建物形状とする。また敷地周囲にある既存の街路樹等をなるべく残し、これまでの景観を踏襲する計画とする。
	<b>LR3 敷地外環境</b> 担体流動生物ろ過循環方式の浄化槽を設置し、敷地外排水についての処理を計画する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照された